



体験版

高城君に甘々爆イキ  
処女喪失させられる

# A t t e n t i o n

高校生を含む18歳未満は閲覧禁止です。

この話はフィクションです。実在の人物や団体とは一切関係がありません。

本書の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

Unauthorized copying and replication of the contents of this book, text and images are strictly prohibited.

## 登場人物

・有馬杏（ありま あんず）

高校生。同じクラスの高城君が好き。

童顔で背が低くて子供っぽいのがコンプレックスだが、身体はドエロい。

・高城凌悟（たかしろ りょうご）

高校生。杏と同じクラスの不良。高校生とは思えないほど大人っぽい。

よく綺麗なお姉さんと歩いている。巨乳好き。

「あ♡♡ 高城くん、それ、あ♡♡ やあ♡♡♡♡」

「有馬の乳首すげえエロいな。オナニーどのくらいしてんの？」

「う、うう、そんな、ことおっ…♡ あ♡♡」

「俺のこと好きなのに言えねーの？」

「んんんっ、い、一日おき、でっ…♡♡」

「へえー。性欲強いんだ」

「あっ♡♡♡」

学校の屋上で、あぐらをかいた高城君の膝の上でビクンっ♡と跳ねてしまって恥ずかしい。屋上で人がいないとは言え外なのに、こんな、制服ずらしておっぱい出して、乳首こりゅこりゅっ♡っ

てされて気持ちよくなっちゃってるなんて……。

「外なのにこんな乳首ビンビンにさせて、有馬はド変態だな」

「ふ、あ そ、そんなことおっ……♡」

えっちいこと言われてるけど、高城君と同じこと考えてるって思  
ったら心がきゆう♡ ってする。

低く「ふっ」と笑った高城君の息が耳を掠って、それだけで身体  
がビクビクした。

「有馬は、乳首つんってされるのと、ぎゅってされるのと、ぴんっ  
てされるの、どれが好きなんだ？」

「んっ♡♡ あ、はううっ♡♡ ぴんって、されるのっ……♡♡  
すきいっ……♡♡」

「ああ、これ？」

「ひうつつっっ♡♡♡♡」

高城君の長い指でピンッ♡と乳首を弾かれて、腰が震える。「はーっ♡♡ はーっ♡♡」と息をしていると高城君が耳に口をくつつけて「そんないいんだ？」と囁いてくるから、もう気絶しないのが不思議なくらいだった。

高城君は、同じクラスの男の子だ。同じ歳なのが不思議なくらいの大人っぽい男の子で、肩より長い黒髪をかき上げる姿がすっごくセクシー。身長も百八十以上あって、足なんて体の三分の二くらいあると思う。モデルさんやっただても不思議じゃない。

初めて高城君を見た時、すぐに「不良だな」って思った。髪長し、ゴツイピアスいくつもしてて、悪い人と連んでたから。関わら

ないようにしようと思つたただけど、ある日外廊下を歩いてる時に高城君がタバコ吸ってるの見ちゃつて、目があつた時にふつと笑つて「しー」つて言われた時に、ずぎゅんつときた。つまり、赤い味弾けたつていうか、そう、恋だ。恋に落ちた。

それから私は同じクラスなのをいいことに、高城君を目で追ううになつた。残念ながら授業はサボりがちでないけど、クラスが違ふよりかは会いやすい。勇気を出して「おはよう！」つて言つた時に、高城君は少し目を開いてからふつと笑つて「はよ」と返してくれて、危うく呼吸困難を起こすところだった。おかげさまでもつと好きになつた。

恋してるからとかではなく、他の人から見ても高城君はカッコいい。同じクラスの他の男の子たちより落ち着いていて大人っぽいし、

スタイルいいし、顔もすごくかっこいい。それといくらかっこよくても不良なのもあってか、女の子たちは高城君に恋するって言うよりアイドルみたいに見っていて、案外私のライバルはいない。

でも、同世代の女の子にはいないってだけで、前に街を歩いている時に、高城君が綺麗なお姉さんと歩いているのを見てしまったことがある。ボンキュッボンで背が高くてそれはもう綺麗なお姉さんだった。

私は、どう見てもちんちくりんだ。背は低いし、腰の位置も高くないし、鼻は低くて口は小さいし……。おっぱいだけはおっきいけど、背が小さいせいでスタイルは悪く見える。

こんなんじゃない、高城君とお付き合いするなんて夢のまた夢かも……。そんな風に思っていたら、また別の日に高城君が女の人と歩い

ているところを見かけた。この前とは違う女の人で、でもやっぱり美人でスタイルのいい大人の人で、お似合いだった。

その日は家に帰ってから泣いた。泣きすぎて目が腫れた。でも泣いてるうちにだんだん「当たって砕けろ！」という気持ちになってきた。どうせ振られるなら、早い方がいい。

そして、今日。

午後一番の授業をサボって、高城君を追いかけて屋上に行つて、「好きです！」って告白した、んだけど……。

「んっ♡♡ やあっ♡♡ も、乳首、やだようつ♡♡」

「これがいいって言ったの有馬だろ？」

なぜか、丸出しになったおっぱいを高城君に弄られている。

「あ♡ あ♡ そ、だけどおっ…♡♡♡」

「俺のこと好きなんだもんな？ じゃあいいだろ」

「ふ、えっ♡♡ で、でもおっ♡♡」

コリコリに勃起しちやってる乳首をピンピンっ♡♡ ってされて、  
気持ちよくなっちゃってるのがすごく恥ずかしい。

「かわいかったピンク乳首、こんなにエロ勃起させちゃってさ。有馬は本当に変態だな」

「ふ、あんっ…♡♡♡」

えっちいい言葉で責められて、身体がビクンっ♡♡ と跳ねる。自分  
でちらっと下を見ると高城君の言う通り乳首は真っ赤に勃起して  
高嶋君の指で弾かれて、すっごくいやらしい。

「有馬のデカイおっぱい、俺がずっと見てたの知ってたか？」

「し、らなっ♡ あっ!!♡♡ だめ、だめそれっ!♡♡ つよいいっ♡♡♡」

ギユウツ! って強くつままれて痛くて気持ちよくて頭がおかしくなりそう。耳元で高城君が笑った声が聞こえた。

「有馬のおっぱい見るために俺毎日ちゃんと登校してるんだぜ? ずっとこうして揉んでやりたかったんだよ。すげー柔らかくて大きくて、触り心地最高だな……」

「ひっ♡♡ ひゃうっ♡♡」

「乳首が雑魚いのもサイコーだし。有馬って、すげー俺のタイプだよ♡」

「ふあっ♡♡」

こりゅこりゅ♡

乳首を転がされながらそんなこと言われたら、嬉しくて気持ちよ  
くてもっともっと高城君のこと好きになっちゃう……♡

「有馬のこと、名前で呼んでいいか？」

「う、うん……んあ♡♡」

「杏、すげえかわいい♡」

高城君、私の名前知ってたんだっ……♡

名前呼ばれた瞬間に、おまんこからおつゆがとろおっ♡ って溢  
れた感覚がしたけど、パンツ履いてるからバレないよね？

「杏、まんこ発情してる？」

「し、してない、よおっ……♡♡」

「ほんとにか？ 嘘ついたら、お仕置きするけど？」

またふっと耳元で笑われてぞくぞくしていると、高城君の手がスカ

トの中に入ってきて、パンツの上からまん筋をなぞってきた。パンツの上から触られてるだけなのに、ぞくぞくが止まんないっ♡

「ほら、やっぱり。パンツ濡れてんじゃん。嘘ついたから、後でお仕置きな？」

「あううっ♡ 濡れて、なんかあっ……あっ♡♡」

カリッ♡

パンツの上からお豆を引っ搔かれて、腰が浮いちやう。でも高城君は私の腰を片腕で抱きしめて、パンツの上からのクリ責めを再開させた。

「あっ♡♡ やあ、そこだめっっ♡♡ ひっっ♡♡」

「乳首だけじゃなくてクリも好きなんだ？ パンツの上からでもわかるくらいエロ勃起してるし、すげー触られたかったんだろ？」

「ち、がっ……♡♡ あっ、あっ♡♡ お豆やあ、だめだめっ……  
ひううっ♡♡」

「杏のエロクリ早く直で見たいけど、先にパンツ越しでイこうな♡」  
「あっ♡♡ やら、あっ♡♡ お豆、引っ搔かないでえっ♡♡」

パンツの上からカリカリされるの、オナニーしてる時より強い快感が襲ってくる。こんなの覚えちゃったら、オナニーじゃもう気持ちよくなくなっちゃうよおっ……♡

「あっ……♡♡ も、もうむりいっ……♡♡」

「直接触ってねーのに、クリイキしそうなのか？」

「だ、だってえっ……♡♡」

「仕方ねーな。一回イかせてやるよ♡」

「ふあ、おっ……♡♡♡♡」

ぐりゅっ♡♡

パンツの上からお豆を潰されて、一瞬目の前が真っ白になる。

「お、ちゃんとイけたか。杏は偉いな♡」

高城君に褒められて、ぼうつとしたまま幸福感が押し寄せてくる。えへへ、と後ろにいる高城君に笑いかけると、高城君はちよつと目を見開いてから、優しく笑った。やっぱり、高城君大好き……♡

そうやってにこにこしていたら、高城君の手がするりと私のパンツを脱がして来た。恥ずかしくて恥ずかしくて仕方ないのに、止められない。しかも高城君は、直接おまんこに触ってきた。

「あっ!?!♡♡ ま、まってっ! いま、敏感だからあっ♡♡」

「知ってるよ。もっと気持ちよくなりたくねーの?♡」

「ひゃうっ♡♡」

高城君、私がクリ弱いのがわかってるくせに♡♡　くりゅっ♡　と  
指先でお豆を撫でられ、身体中に電流が走ったみたいになって仰け  
反った。

「杏のクリ、すっげーエロ勃起してんじゃん。まん汁でぬるぬるだ  
し、皮剥けてピンピンで可愛い♡」

「そ、そんなこと言わないでえっ……おっ♡♡」  
しゅこしゅこッ♡

直接クリ扱かれてるっ♡　高城君の綺麗な長い指が私のお汁の  
せいでぬるぬるになっちゃってて、恥ずかしいっ……♡♡

「あゝっ！♡♡　らめえっ♡♡　それすぐイッちゃうぐっ♡♡♡♡」

「さっきイったばっかりなのに、もうイきそうなのか？♡　ほんと  
ド淫乱だな♡」

「ごめんなさっ……♡♡ おおっ♡♡♡」

「こら、まだイクな。雑魚クリ、俺が良いって言うまで我慢しろよ？」

高城君の命令に逆らえず、私は必死でおまんこの力を入れた。

「おっ……♡♡ ふ、ぐうっ……♡♡♡」

「あー、やべ、杏、超かわいい……♡ すっげー俺好みなんだけどっ……♡♡」

高城君の嬉しそうな声が聞こえてきて、私の胸がきゅんきゅんした。でも高城君が私のお豆をしゅこしゅこ♡ する手は止まらなくて、またすぐにイきたくなる。

「あっ……♡♡ 高城、くうんっ……♡♡ も、もうだめっ……♡♡」

「だーめ。勝手にいったらお仕置きだからな。あと十秒我慢したら  
イっていいから」

「じゅ、じゅー、びよおっ……？♡♡」

「そ。数えるぞ。じゅーう、」

「おっ♡♡」

むりっ♡ 十秒なんて、絶対むりいっ♡♡ 高城君が私の耳に口  
をくっつけて、カウントダウンを始める。でもその間も、お豆を扱  
かれるスピードはどんどん速くなって行って、もう耐えられないっ

♡

「きゅーう、はーち……杏、もうちよいだから頑張れよ？」

「あっ……♡♡ も、むりいっ♡♡」

「はえーよ♡ まだだめだって♡ なーな」

「おっ!!♡♡♡」

イっちゃだめって言うてるのは高城君なのに、お豆を扱ってる手に力が入って、ぎゅうっと強く握られた。痛いはずなのに、それが気持ちよくてたまらない。耳元で高城君はくすくす笑いながら、私のお豆を虐める。

「ろーく、ごー」

「あっ♡♡♡ むりいっ…♡♡♡」

「あと半分だっ。がんばれ♡」

途中で喋るから時間がかかっていて本当はもう十秒くらい過ぎてるってことに気づく余裕すらなくて、おまんこにぎゅっと力を入れてるけど、もう限界っ…♡♡

「よーん、さーん」

「あっ……♡♡♡　もおむりっ♡♡♡　いく、いっちゃうっ♡♡♡」  
「あと三秒だぞ？」

「むりいっ♡♡♡　ばくうううっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

ビクビクっ♡　ぷしゃあっ♡

震えながら勢いよく潮を吹き出す。こんな激しくいっちゃったのは初めてでぼーっとしてると、高城君に身体を反転させられ、地面に押し倒された。視界が青い空をバックにした高城君でいっぱいになる。さっきまでは後ろからだっこされてたから高城君の顔を見るのは久しぶりな気がして、ドキドキしちゃう。でも、高城君はいつもと違う顔をしていた。なんていうか……男の人の顔。

「俺、イクの十秒我慢しろっていったよな？」

「あう、ご、ごめんなさい……♡」

「だめ。許さねー。勝手にクリイキしたから、お仕置きな。それに……」

「きゃうっ！♡」

両足をぽかっ♡ と広げられて、パンツ履いてないおまんこを高城君に見られちゃう。いったばかりでおまんこひくひくしてるし、潮吹いちゃったからおもらししちゃったみたいにびしょびしょだし、それに、おまんこ誰かに見られるなんて初めてだから、恥ずかしいっ……♡

「まんこ発情してないって言ってたくせに、すっげー発情してんじやん♡ 嘘ついたから、その分もお仕置きだからな？♡」

「あううっ……♡♡」

高城君も発情してるみたい呼吸が荒くて汗かいてて、上唇をペ

ろつと舐めるのがすつごくセクシーで、もつとおまんこ発情しちゃ  
うっ……♡

カチャカチャと音を立てて高城君がベルトを外すのを思わずじつ  
と見てしまうと、高城君がそれに気が付かないはずもなく、ニヤツ  
と笑って見せつけるようにゆっくりズボンを脱いでいった。

お父さん以外ので初めて見るおちんちんは、高城君の綺麗な顔に  
似合わずグロテスクで、おっきくて、反りかえってて、血管が浮か  
んでた。えっちなお汁が先端について光っていて、私はゴクン、と  
生唾を飲み込む。

「杏って、処女？」

「へっ？ う、うん……」

高校生なので処女なのは普通のことだと思っけど、高城君はこの

前見たような綺麗なお姉さんといっぱいえっちしてるだろうから、  
恥ずかしくて俯く。それと同時に、胸がキリキリと痛んだ。

「へえ。処女なのに、まんこ発情させてるんだ♡　こんなほかほか  
まんこで、ちんぽほしいってヒクヒクさせて……♡　淫乱すぎるだ  
ろ♡」

「ち、ちがっ……♡　そんなんじゃ、あっ……♡　あっ！♡♡」  
ぺちんっ♡

おまんこの入口に高城君のおちんちんを当てられて、腰を引く。  
でもすぐにぐいっとお尻を持ち上げられ、おちんちんを押し付けら  
れてしまう。ど、どうしよう、高城君のおちんちん、当たってるっ  
……♡　これ、高城君とセックスしちゃうってことっ？　どうしよ  
う、どうしようっ……♡♡

「お仕置き一個目。杏の処女まんこ慣らさないで奥までちんぽぶちこむ♡」

「はうっ……♡♡」

ほんとにしちやうんだっ♡♡ 高城君の、この、おつきーおちんちん、おまんこにっ……♡ 想像するだけでおまんこがきゅんきゅん疼ちやうっ……♡ お仕置きって言われてるのに、嬉しいっ……

♡♡

「お仕置き二個目。生ちんぽぶちこむ」

「へっ……」

はつと高城君のおちんちんを見ると、確かに、コンドームしてない。高城君と、生セックスっ……♡ やだあ、おまんこのお汁どろおっついていっぱい出ちやっただっ♡

「あ、んっっ♡♡♡」

「はっ……♡ すげ、杏のまんこ、先っぽ当ててるだけなのにすっげー吸い付くっ……♡ ぬるっぬるで、素股だけでも気持ちよさそっ……♡♡♡」

「あ、高城、くうっ……♡♡ おちんちん、入っちやう、よおっ……♡♡♡」

「はは、今から、杏のほかほか発情まんこに、俺のガツチガツチに勃起した発情ちんぽ、ぶち込むからなっ……♡ よく見とけよっ♡♡」

「あう、やあっ……♡♡」

ちゅぽっ♡

高城君のおちんちんが私のおまんこにえっちな音を立ててキスし

てる。それを見た瞬間、頭の中でぷつと何かが切れた音がした。

「た、高城、くんのっ、おちんちんっ……♡♡♡ 杏の処女おまんこに、いれてっ……♡♡♡」

「っ♡♡ あー、やべ、杏、マジエロい、ははっ、もう、手加減できねーっ……!♡♡」

「おッ!?!♡♡♡♡」

ばっぢゅううっっ!♡♡♡♡

あ、なにこれ、なにこれえっ……♡ おつきくて、苦しくて、硬くて、おまんこ擦られて、頭、変になるっ……♡

高城君のおちんちんが一気におまんこを貫かれて、初めてなのに、いきなり子宮口突かれて、一瞬意識飛びかけた。

「うっ……♡♡♡ すぐ、まんこキッツ……♡♡♡ 処女まんこ最

高かよっ……♡♡♡♡

「ひゃぐっ♡♡♡ いぎなりいっ♡♡♡ おちんちん、はいっ、て、  
るううっ♡♡♡」

「は、すっげ、杏の中、めっちゃあったけえ……♡♡♡ まんこ熱  
くて、溶けそうっ……♡♡♡」

「ああ♡♡♡ は、はいつてりゅ、高城く、のおちんちん、お  
くまれ、はいつてりゅよおっ……♡♡♡」

「ああ、入ってるぜっ……♡♡♡ ほら、わかるだろ？ ここだ、  
ここに、杏の中になっ……♡♡♡」

「あっっっ♡♡♡」

おっきいおちんちんでぽこって膨らんだお腹の上を手でぎゅって  
押される。その刺激で中にあるおちんちんの形がはっきりわかって

しまうくらい締め付けてしまおうと、高城君が小さく喘いだ。

「おっ……♡♡♡ あー、気持ちいいっ……♡♡♡ 杏のまんこ、まじで名器だなっ……♡♡♡」

「あ、はうう、高城、くう、おちんちん、すごいよおっ……♡♡♡ はーっ、はーっ、おっ……♡♡♡」

「っはは、処女のくせに、なんでこんなすぐで中で感じてんだよっ♡♡♡」

「た、高城くん、のことお、考え、ながらっ♡♡♡ おなにい、いっぱい、したからっ……♡♡♡ ひぐっ♡♡♡」

ただでさえおっつきい高城君のおちんちんが、お腹の中でむくってまたおっつきくなった。その衝撃でピクピク震えてたから、高城君が獲物を目の前にした獣みたいな目になったことに気づかない。

「は、何、お前、俺の事オカズにしてオナニーしてんの？」

「うんっ…：…♡♡♡へ、変態で、え、ごめんな、さっ…：…♡♡♡」

「はー、くそ、許すわけねーだろっ♡♡♡」

「んむうっ…：…！♡♡♡」

突然唇に噛みつくようなキスをされて、もっと頭がぼうっとする。

もちろんファーストキスなのに、舌が入ってくるのと同時にお尻も

驚掴みされて、そのまま腰を打ち付けられるように動かれる。ぱん

っぱんっ…：…♡♡♡っていう肌同士がぶつかり合う音と、ずちゅっ

♡♡♡ずぼっ♡♡♡という水音が混ざった卑猥な音を空に響かせて

いる。でも私の耳に入るのは口の中で舌をくちゅくちゅされる音だ

けで、もう何も考えられないっ…：…♡♡♡

ぱんっぱんっぱんっぱんっ…：…♡♡♡ずちゅっ♡♡♡ずぼっ♡♡♡ず

ぼっ、ずぼっ♡

「ぐちゅ、ぷはっ……♡♡♡ 杏のまんこ、俺のちんぽ離さないっ  
てぎゅうぎゅう締め付けてるっ……♡♡♡」

「あっ……♡♡♡ 高城く、の、おちんちんっ、きもちいよおっ  
……♡♡♡ おっ♡♡♡ しょこっ♡♡♡」

「っは、おっぱいだけじゃなくて、ケツもまんこも肉厚むちむちで  
っ、杏の身体、たまんねーなっ♡♡♡」

「ひ、づっ♡♡♡」

さっきまでキスしてた高崎君の口が今度はおっぱいにいって、乳  
首を甘噛される。その瞬間、視界が真っ白になるほどの快感が襲っ  
てきた。声にならない悲鳴をあげながら全身を痙攣させる私を見て、  
高城君は「またイッたなっ♡♡♡」と低く唸るように、でも興奮を

抑えきれない声で呟いた。

「おっ……♡♡♡ きつついまんこ、いくともつと締めてくるっ♡♡♡ はーっ、杏のまんこ覚えたらっ、俺のちんぽ、他の女に勃たなくなっちまうぞっ……♡♡♡」

「ひいんっ♡♡♡ わたしっ、以外、だめになってえっ♡♡♡ 高城くん、のお、おちんちんっ♡♡♡ 杏の、おまんこだけに、してっ♡♡♡」

「あ〜くそっ♡♡♡ ほんっとかわいいなっ……♡♡♡」  
「おっ……♡♡♡ あああっ……♡♡♡」

ぬぷっ……どぢゅんっ♡♡♡ ぬぷっ……どぢゅんっ♡♡♡

おちんちんをぎりぎりまで引き抜いて一気に奥に叩き込まれる。

高城君のおちんちんおっきくて硬くて、おまんこ抉られるっ♡♡♡

学校の屋上で、好きな人とこんなスケベなセックスしちやってるっ  
♡♡♡ こんな気持ちいいこと知っちゃったら、もう戻れないよお  
っ……♡♡♡

「はっ♡♡♡ まんこきゆんきゆんしすぎっ♡♡♡ そんなに俺の  
こと好きなのかよっ♡♡♡」

「あっひ♡♡♡ しゅきっ♡♡♡ 高城、君っ……♡♡♡ しゅき  
いっ……♡♡♡」

「ずっと俺のこと見てたもんなっ♡♡♡ ずっとこうやって、俺の  
ちんぽで、このエロまんこほじられたかったんだろっ♡♡♡」

「うんっ……♡♡♡ しゅきっ♡♡♡ 高城君のおちんちんしゅき  
いっ……♡♡♡ だいしゅきいいいっ……♡♡♡」

手を伸ばして高城君に抱き着いて、足を絡ませて、もっと密着し

たいから自分からも腰を動かして、もっともっと高城君を感じたくて、頭の中に高城君の事しか考えられなくなる。高城君も私のことぎゅうって抱きしめてくれて、おちんちんがもっとおまんこの奥まで届いて、高城君大好きすぎて降りて来た子宮にちゅぱちゅぱ吸い付いて、気持ちよすぎるよおっ……♡♡

「おおっ、すげっ♡♡♡ はー、かわいーしエロいし、はあっ、くおっ♡♡♡ 処女だったくせにこんなスケベセックスに喜ぶしっ、マジやべーよお前っ……♡♡♡♡」

「おっほおっ!?♡♡♡」

ずぼっ………ぐぢゅうううっ♡♡♡

いきなりおちんちん全部抜かれたかと思ったら、一気に一番奥まで突き上げられた。お腹の奥を殴られたような衝撃が走って、身体

が大きく跳ね上がる。そのまま激しく何度も突かれて、私は声も出せずに絶頂した。

ばちゅっ♡♡♡ ばちゅっ♡♡♡ ばちゅっ♡♡♡

「おっ…♡♡♡ かはっ…♡♡♡ ひゅっ…♡♡♡」

「はーっ、はーっ、アクメまんこ一番ヤバいなっ♡♡♡ ちんぽ食いちぎられそうっ…♡♡♡ こんな女、絶対手放せねーよっ…♡♡♡」

「ひいっ♡♡♡ あっ、あああっ♡♡♡」

ズッポオっ♡♡♡ ぐぢゅんっ♡♡♡ ごりゅごりゅごりゅごり

ゅっ♡♡♡

おちんちンドリルで子宮口拡げられてるうっ♡♡♡ おちんちんでいっばいにされて、身体がバラバラになりそうなくらい強い快感

に襲われてるのに、もっと強くしてほしいって思ってしまったって、勝手に腰動いて高城君のピストンに合わせていってしまった。こんな変態みたいなこと、ダメなものに……♡♡♡でも気持ちよくて止められないよおっ……♡♡♡

「こんだけやってんのに、まだ欲しいのかった？♡♡♡欲しがりませんこめっ♡♡♡俺以外のちゃんぽ欲しがったら、絶対許さねーからっ♡♡♡」

「あっ、ぐんぐんっ♡♡♡高城く、だから、だもおっ♡♡♡ほかのおちんちん、いりゃない、のっ♡♡♡高城くんだけの、専用おまんこ、だからやあっ……♡♡♡」

「じゃあ一生俺から離れらんねえなっ……♡♡♡」

「んんんっ！♡♡♡イく、またイグウツ……！♡♡♡」

高城君の言葉が嬉しすぎて、頭が真っ白になってまたイっちゃう。それと同時に高城君の動きが激しくなつて、私を責め立てる。もうだめえっ♡♡♡ これ以上されたら、死んじゃうっ♡♡♡

「俺も、出すぞっ……！♡♡♡」

「あっ……！♡♡♡ 赤、ちゃっ……♡♡♡」

「俺のこと好きなんだから、当然生でいいんだよなあっ……！♡♡♡  
♡♡♡ 孕めっ♡♡♡ 俺の子産めっ……！♡♡♡」

「おっほ、あ、あ、あああっ………♡♡♡」

どびゅーっ！♡♡♡ びゆるる、びゅっくううっ♡♡♡

おまんこの一番奥でおちんちんが一際大きく膨れて、熱いものが勢いよく膣内に吐き出される。その感覚にすら感じてしまい、私は意識を失った。

# 高城君に甘々爆イキ処女喪失させられる\_体験版

2022年8月3日発行

---

♡ どん丸／がら堂

♡ Twitter : @garadou18,@donmaru18